令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	１年・総合的な学習の時間	時数等	２

目標・人権教育のねらい	子どもが権利の主体であることや守られる権利があることに気づくとともに、自分を守る方法を知る。
実施した内容	①どれが一番大切？ ②知ってる？「子どもの権利条約」 ※三重県人権学習指導資料（小学校高学年）『みんなのひろば』を活用した。
工夫した点	子どもが幸せに生きるために大切だと思うものを15枚の子どもの権利カードから６枚選び、「現在の自分にとって大切なこと」という観点で、大切な順にピラミッド型にランキングさせた。選んだカードは「子どもの権利条約」がもとになっていることを伝え、「子どもの権利条約」と共に「三重県子ども条例」も紹介した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 取組の前後に実施した「人権アンケート」（＊三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔60.0%⇒81.6%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔58.5%⇒81.6%〕となった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	女性	対象学年・取り扱った教科等	３年・総合的な学習の時間	時数等	３

目標・人権教育のねらい	固定的な性別役割分担意識の影響により個性や能力を発揮しにくい状況が生じていることに気づき、男女共同参画社会の実現につながる姿勢を身につける。
実施した内容	①女性参政権獲得の歴史から考えよう ②日本は男女平等？ ③誰もが働きやすくするために ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	女性参政権獲得の歴史を学ぶことを通じて、性別役割分担意識が女性の社会参画を妨げていたことに気づかせた。ジェンダー・ギャップ指数をはじめとする様々な調査等の結果から、男女共同参画社会をつくるうえでの現在の日本の課題を考え、男女共同参画社会を実現するためには、社会や自分たち一人ひとりの意識の改革が必要であることに気づかせた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会〔歴史的分野〕〔公民的分野〕 ・道徳〔社会参画、公共の精神〕

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 取組の前後に実施した「人権アンケート」（＊三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔64.2%⇒83.7%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔58.1%⇒76.3%〕となった。 ３年生では、他者の特性や気持ちを大切にした行動がとれる生徒が増えている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	高齢者	対象学年・取り扱った教科等	１年・総合的な学習の時間	時数等	２

目標・人権教育のねらい	高齢者を多面的にとらえる観点をもつとともに、認知症についての理解を深め、高齢社会の一員として生きていくための知識と態度を身につける。

実施した内容	①高齢社会って何？ ②認知症について知ろう ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点	高齢社会とは、総人口に占める高齢者の割合が高い社会のことで、一般には、65歳以上の人口が総人口の14%を超えた社会をいう。本校のある紀北町は超高齢社会となっている現状や家族等の身近な人の中に認知症の患者が必ずいることを踏まえ学習を進めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会〔公民的分野〕 ・道徳〔家族愛、家庭生活の充実〕

事業成果

・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等
　78.6%　→　81.4%　（＋2.8）
・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等
　75.7%　→　76.5%　（＋0.8）
・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等
　75.5%　→　79.1%　（＋3.6）

　自信が暮らす紀北町の高齢社会の状況を理解し、多くの生徒が、高齢者の人権保障が社会問題であることに気づくことができた。また、認知症患者やその家族の生きづらさを知り、すべての人が暮らしやすい社会をつくることの重要性に気づいた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	障害者	対象学年・取り扱った教科等	２年・道徳	時数等	１

目標・人権教育のねらい	「自立」のとらえ方についての認識を深めるとともに、障がい者が地域社会で暮らすことを「あたりまえ」にすることの大切さを理解する。
実施した内容	「ともに生きるために」というテーマで、教師の体験した、施設で暮らす人々との出会いや交流、ともにボランティアに参加した中学生のエピソードを織り交ぜ、共生社会の実現や社会的障壁をなくすための工夫等について学習を進めた。
工夫した点	障がいがある人とない人がともに暮らしていくためには、自然な関わりの中で理解し合うことが大切であることや障がい者の社会参画が妨げられている現実に気づけるよう、生徒にとって身近な存在である指導者の体験談を多く取り入れて取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 取組の前後に実施した「人権アンケート」（＊三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔83.2%⇒90.8%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔69.1%⇒81.6%〕となった。 校内では、町が主催する障がいのある人との交流等のボランティアに積極的に参加する生徒が増えている。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	同和問題	対象学年・取り扱った教科等	中学１、２、３年・総合的な学習の時間	時数等	５～６

目標・人権教育のねらい	・部落差別の解消をめざして展開してきた取組やその意義を理解するとともに、部落差別に関わる学習を進める必要性に気づく。 ・差別の中、たくましく立ち上がった人々の姿から、自分の生き方や仲間との関係を見つめ直し、部落差別をはじめ、あらゆる差別をなくそうとする意欲を高める。
実施した内容	１年：「教育を受ける権利の保障」～教科書無償の運動～ ２年：なぜ識字学級に通うのか～困難に立ち向かってきた人々の姿から学ぶ～ ３年：すべての人が生きやすい社会をめざして～「統一応募用紙」制定の取組から学ぶ～
工夫した点	本校においては、同和問題を扱った学習の充実に課題が見られたため、すべての学年の人権学習において「部落問題学習」を取り入れた実践を進めた。各学年とも、差別に抗い闘った人々の「レジリエンス」を意識した題材とした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・社会〔公民的分野〕 ・道徳〔向上心、個性の伸長、遵法精神、公徳心〕

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 取組の前後に実施した「人権アンケート」（＊三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔50.0%⇒80.6%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔43.6%⇒70.4%〕となった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	アイヌの人々	対象学年・取り扱った教科等	２年・社会〔地理的分野〕 ３年・社会〔公民的分野〕	時数等	１

目標・人権教育のねらい	アイヌの文化や歴史について知ることをとおして、アイヌに対する関心を高めるとともに、アイヌの人々の権利についての理解を深める。
実施した内容	２年：①アイヌの文化と歴史 ３年：②アイヌの人々の権利回復について ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	アイヌの言語や文化に触れるとともに、アイヌの人々が権利を奪われてきた歴史を知ったり、アイヌの人々の権利回復の経緯を知るとともに、先住民族の権利についての理解を深めたりするために、補助資料として、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して学習を進めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 北海道の地名で、苫小牧や知床などはアイヌ語に由来していること等を学んで、アイヌの文化に触れるとともに、アイヌの人々が奪われてきた歴史を子どもたちが学ぶ機会となった。また、権利回復の経緯を知ることで、アイヌの人々の権利について理解を深めることにつながった。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	２年・総合的な学習の時間	時数等	３

目標・人権教育のねらい	外国につながりのある人が安心して生活できるようにするために、環境を整えたりともに活動したりする意欲やコミュニケーション技能を高める。
実施した内容	①みんなが住みよいまちづくり（案内編） ②みんなが住みよいまちづくり（防災編） ③みんなが住みよいまちづくり（活動編） ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	本校は、数十年以内の発生確率が高まる南海トラフ大地震において、甚大な被害が想定されている地域にある。そのため、日頃から避難訓練や防災学習に力を入れ取り組んできている。特に、みんなが住みよいまちづくり（防災編）では、外国につながりのある人が安心して避難できるようにするためにはどのような環境を整える必要があるかなど、日々の防災に関する取組と関連づけながら広く考えられるよう取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 取組の前後に実施した「人権アンケート」（＊三重県調査票）では、「解決する問題として現在、存在していることを知っていますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔76.8%⇒84.7%〕であった。また、「問題の解決には自分も関わりがあると思いますか」の問いにおいて、肯定的な回答は〔61.7%⇒77.6%〕となった。 生徒の中には外国につながる生徒も数名おり、より身近な問題として取り組むことができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	HIV感染者等	対象学年・取り扱った教科等	３年・保健体育 １～３年：性の講演会	時数等	２～３

目標・人権教育のねらい	・さまざまな病気や、その患者が置かれている状況等を正しく理解するとともに、ともに支え合う社会をつくっていこうとする意欲を高める。 ・性感染症について知り、他者と対等な関係をつくっていこうとする意欲を高める。
実施した内容	３年：①正しく知ろう！　HIV・エイズ ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。 １～３年：助産師による「命を守る性の話」
工夫した点	正しく知識をもつことが感染から自分や他人を守ることにつながること、無知が偏見や差別を生むことに気づくことができるよう、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して学習を進めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 生徒は、「基本的に、日常生活で感染する確率が極めて低いのであれば、感染者を不要に避けなくてよい」「正しい知識をもてば、感染を予防し、自分も他人も守れるようになる」といった考えをもつことができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	ハンセン病患者等	対象学年・取り扱った教科等	３年・社会〔公民的分野〕	時数等	１

目標・人権教育のねらい	さまざまな病気や、その患者が置かれている状況等を正しく理解するとともに、ともに支え合う社会をつくっていこうとする意欲を高める。
実施した内容	①ハンセン病に係わる歴史から学ぶ ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	社会（公民的分野）の「人権と共生社会」の学習で、部落問題をはじめとする人権問題の具体的な事例を取り上げ日本国憲法や法律による基本的人権の保障を理解させるとともに、法は自分や他人の人権を守り、人権侵害における救済のためのよりどころであることに気づけるよう、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を補助的に活用して取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） ハンセン病に関わる歴史的経緯は、既習内容である部落問題学習とも重なりをもつと感じた生徒もおり、ハンセン病もまた、偏見や差別をなくしていくためには、正しい知識が必要なことに気づく様子が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	刑を終えて出所した人	対象学年・取り扱った教科等	３年・道徳	時数等	１

目標・人権教育のねらい	刑を終えた人・保護観察中の人たちの社会復帰を支えるためには、周囲が偏見や差別意識をもたずに関わることが必要であることを理解する。

実施した内容	①ある少年の詩 ②僕を変えてくれたもの ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。

工夫した点	道徳〔相互理解、寛容〕の題材として、刑を終えた人の社会復帰を支えることに焦点を当てた学習に取り組むため、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用して取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 刑を終えた人々が立ち直れるかどうかは、周囲の人々の関わり方や接し方も大きく影響することに気づく生徒が多く、周囲の人々に対する自分のこれまでの接し方等をふり返る様子が見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	犯罪被害者等	対象学年・取り扱った教科等	２年・道徳	時数等	１

目標・人権教育のねらい	犯罪被害者等は、被害後に生ずるさまざまな問題によって苦しめられることや、個々に応じた支援・配慮は必要であることを理解する。
実施した内容	①犯罪被害者等の気持ち ②犯罪被害者等に必要な支援・配慮 ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	学校生活において、友人関係が上手くいかず仲たがいをしてしまう具体的な事例をあげながら、励ますつもりでかけた言葉でも、犯罪被害者等に精神的苦痛を与える可能性に気づき、言葉の受けとめ方は一人ひとりちがうことを理解できることを意識した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 学習補助資料の活用により、生徒は、同じ言葉がけでも一人ひとりの受けとめ方は様々で、「傷つく人」もいれば「気分が落ち着き、楽になる」と真逆な感じ方となる場合があることに気づくなど、支援や配慮の仕方は、一人ひとりちがうことを学ぶことができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	１、３年・技術家庭〔技術分野〕	時数等	２

目標・人権教育のねらい	情報の特性を理解して、情報を有効にかつ安全に利用できる技能を身につける。また、インターネットによる人権侵害の被害者にも加害者にもならないための知識を身につける。
実施した内容	「情報検索の便利な点と注意すべき点」「情報発信の便利な点と注意すべき点」「情報サービスの便利な点と注意すべき点」について具体的な事例をもとに学習を進めた。また、三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』から、「情報に潜む危険①」と「情報に潜む危険②」を用いて学習を進めた。
工夫した点	技術家庭科の技術分野（情報の技術）の学習等に加え、全校生徒を対象としたネットモラルに関する講演会（スマホ・ケータイ安全教室）を実施して、インターネットによる人権侵害に関わる取組を進めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 学習後、定期テストで、人権侵害の被害者にも加害者にもならないためにはどうすればよいかを考え記述する問題を出題したところ、「インターネット上の情報は鵜呑みにせず、身近なおとなに確認する」や「友だち等にメッセージを送る場合は、相手の気持ちをよく考えて、送る直前に何度も読み返すことが大事」といった解答が多く見られた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	北朝鮮当局による拉致問題等	対象学年・取り扱った教科等	３年・総合的な学習の時間	時数等	３

目標・人権教育のねらい	拉致被害者家族の思いを知ったり、拉致は多くの権利を奪うことに気づいたりすることを通して、拉致問題についての関心を高める。
実施した内容	８月に行われた「拉致問題に関する中学生サミット」に参加した生徒代表が「拉致問題とはどのような問題か」「拉致被害者家族の声を聴き、私たちに何ができるかについて考えたこと」を学年や文化祭の場で還流報告した。
工夫した点	サミットに参加する前に学年で「北朝鮮による日本人拉致問題啓発アニメ『めぐみ』短編版」を視聴して、生徒にわかりやすく問題の経緯を示した。北朝鮮に対しては、近年のマス・メディアによって、「北朝鮮は悪い国」と一括りにした見方になりがちである。そうならないように、北朝鮮に住んでいるすべての人が悪いのではなく、その国の政治体制が招いた事象であることを理解させるようにした。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 還流報告を受けて、拉致問題について理解するとともに、被害者や家族の気持ちを考えることができた。また、拉致問題を自分の問題として引き寄せて考えることができた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	１、２年・保健体育	時数等	２

目標・人権教育のねらい	性のあり方は多様であること、LGBTQ等の当事者に対する人権侵害に気づく力や多様な性のあり方を認め合おうとする態度を身につける。
実施した内容	①性のあり方はいろいろ ②性のあり方の多様性を認め合うために ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	LGBTQ等の当事者の権利を守るための現在の社会の動きについて学びながら、LGBTQ等の当事者である子どもを不安にさせないよう学習を進めた。また、Ａさん、Ｂさんの手記を読み、考えを深められるよう取り組んだ。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 学習をとおして、生徒はLGBTQ等の当事者の抱えている困難に気づくことができた。すべての人権問題に共通する、誰もが安心して過ごせる社会や環境の整備が必要なことを理解した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	三重県	学校名	紀北町立紀北中学校

人権課題	その他（災害と人権）	対象学年・取り扱った教科等	１、２、３年・総合的な学習の時間	時数等	２

目標・人権教育のねらい	災害発生時に生じる人権侵害について考えることをとおして災害によって被害を受けた人々への二次被害を防ごうとする態度を身につける。
実施した内容	①互いに配慮することは ②私たちが防風林になる ※三重県人権学習指導資料（中学校）『みらいをひらく』を活用した。
工夫した点	南海トラフ大地震の発生時には甚大な被害が想定される地域にある本校では、全校での避難訓練に日常的に取り組むとともに、座学として、学年ごとにさまざまな防災学習を実施して知識や技能を高めている。こうした日々の活動を踏まえながら、災害発生時には人権侵害が生じることを理解し対処する力が身につくよう東日本大震災後の原子力発電所事故を例にしながら学びを深めた。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	－

事業成果	・知識的側面：「人権問題は自分たちの生活に関係している」等 78.6%　→　81.4%　（＋2.8） ・価値的・態度的側面：「人権問題を解決するために、何かできることをしたい」等 75.7%　→　76.5%　（＋0.8） ・技能的側面：「人権問題について友だちと共に考え、解決しようとしている」等 75.5%　→　79.1%　（＋3.6） 学習をとおして、生徒は「大災害発生時には、それに伴い人権侵害が生じやすいことを学ぶことができた。特に、東日本大震災の原子力発電所事故後には風評被害が起こったが、『被爆した人に近づくと放射能がうつる』と言われたなどの事例から、風評被害とは何かを知ることができた」など、学びを深めることができた。